

Q₂ アラブ諸国に共通する特徴は?

A₂ 人口の増加傾向が続き、若年層の割合が高い構成です。それが各国の、ひいてはこの地域の潜在的な力になっています。

A1ではアラブの多様性に触れましたが、一方で共通点も多数あります。たとえば人口に注目したときに見えるのは、アラブ諸国の多くは現在も人口が増加傾向にあること。そして総人口における若年層の割合が高いという特徴です。

1970年から2010年までアラブ地域の人口増加率は、世界の増加率を超えています。2018年の合計特殊出生率^{*2}は、14の国が人口増加の閾値となる2.1を超え、なかでも11の国と地域が世界平均(2.42)以上の数値となっているので、同地域の人口増加はまだしばらく続きそうです。

また、同地域の中位年齢^{*3}の平均は、2010年は24.7歳、20年(予測)は27.5歳、50年(予測)^{*4}は33.1歳。高齢化の傾向はありますが日本に比べれば^{*5}きわめて若く、しばらくは若年層の多い人口構造が維持されると考えられます。

若年層の多さが「アラブの春」に結びついたかどうかには明確な答えはありません。しかし、「アラブの春」以降も続く人口の増加と若年層の多さは、社会経済インフラの整備、若年層の雇用創出、若者の国外への移民の増加など多くの課題はあるものの、今後も社会や経済が成長する可能性の大きさを感じさせます。

*2 一人の女性が15歳から49歳までに産む子どもの数の平均値(世界銀行、2018年)。
*3 人口を年齢順に並べたとき、その中央で全人口を二等分する境界点にある年齢。
*4 総務省統計局「世界の統計2017」などをもとに算出。
*5 日本の中位年齢は、2010年は45.0歳、20年(予測)は48.9歳、50年(予測)は56.0歳(総務省統計局「世界の統計2017」)。

Q₃ アラブ諸国に関する日本の外交方針は?

A₃ 原油輸入の約9割を、アラブ諸国が多く存在する中東地域に依存する日本にとって、同地域の平和と安定はきわめて重要。各国の状況に応じた協力を引き続き行います。

「アラブの春」以降、日本は中東・北アフリカ諸国の安定的で民主的な体制への移行と経済社会改革に向けた努力を促すために、国際社会と連携して「公正な政治・行政運営」「人づくり」「雇用促進・産業育成」という三つの重点分野を中心に協力を行ってきました。

2016年から18年の3年間には、暴力的過激主義の拡大を阻止し、「寛容で安定した社会」を中東に構築するために、約2万人の人材育成を含む総額約60億ドルの支援を実施しました。17年には日本とアラブ連盟加盟・地域の閣僚による日アラブ政治対話をエジプト・カイロで開催しました。「知的・人的貢献」「人への投資」「息の長い取り組み

「政治的取り組みの強化」の4か条を発表し、アラブ諸国との関係強化に努めています。

「アラブの春」からまもなく10年。日本は、米国と同盟関係にありながら、同時に中東

各国と良好な関係を築いている独自の立場にあります。アラブ諸国に対して地域の共通性に留意しながら、各国の状況に応じた協力を引き続き行っていきます。



2017年に開催された日アラブ政治対話。日本とアラブ諸国との関係が強化された(写真提供:外務省)。



©DLE



JICAはアラブ諸国に対して数々の技術協力プロジェクトを行っている。左:パレスチナでは、難民キャンプに暮らす人々の声を反映させたキャンプ計画立案のための能力強化研修を実施した。



エジプトでは、教員が日式教育モデルで授業ができるように、教員の「指導員」を育成。日本での研修で都内の小学校を視察した指導員。



水不足が深刻なイラクで、農業用水管理のための水利組合の運営に協力。組合員が畑に水を送るためのポンプ整備を行った。

Q₁ アラブ諸国って、どんな国々なの?

A₁ アラビア語を母国語とするアラブ人が多く暮らす国々をアラブ諸国と呼びます。

中東・北アフリカ地域の国々を語るときによく使われるのが、「アラブ諸国」という言葉です。アラブ諸国とは、一義的にはアラビア語を話す人々(アラブ人)が住む国々のこと。その定義に従えば、アラブ諸国には19の国と地域が含まれます^{*1}が、中東・北アフリカ地域の国々とびったり重なるわけではありません。

中東・北アフリカ諸国には、トルコ、イスラエル、イランなど非アラブ系の国が含まれます。一方、スーダンのように同地域の外にあってアラブ系の国民が多数を占めているのでアラブ諸国に含まれる国もあります。また、アラブ諸国の地域国際機関であるアラブ連盟には、ソマリア、ジブチ、コモロなどアラビア語が公用語の一つになっているものの、国民の大部分は非アラブ系で構成されている国々も加盟しています。

このようにアラブ諸国はその外延が局面ごとにより柔軟なものとなっています。いずれにせよ、一義的な意味のアラブ諸国でも、東はペルシャ湾から西は大西洋まで広がっており、多様性に満ちています。

たとえば、言語。アラビア語の話し言葉に

は大きな地域差があります。モロッコ人は、イラク人や同じ北アフリカのチュニジア人も標準アラビア語を使わなければ理解しあうことが難しいといわれています。また、旧宗主国の言語の影響もあり、フランス語圏のアラブ諸国では数字や時間、暦にフランス語の単語が使われていることが多いという印象です。アルジェリアの人々の間で広く使われているフランス語の文章の中でアラビア語の人称詞が使用されることもあるようで、こちらはアラビア語がフランス語に影響を与えている例です。いずれにしてもアラビア語を巡って、地域独特の言語状況が生まれています。

宗教についても多様で、アラブ人にはイスラム教徒ばかりではなく、キリスト教徒やユダヤ教徒のアラブ人もいます。さらにイスラム教徒といってもスンニ派、シーア派など宗派の違いがあり、スンニ派の内部においても、結婚・離婚などの夫婦および家族関係を規定する法律(いわゆる身分法)の内容が国によって異なっているケースもあり、男女の関係や、宗教と世俗の関係のあり方などにも多様性が生まれています。

*1 イラク、クウェート、カタール、アラブ首長国連邦、バーレーン、サウジアラビア、オマーン、イエメン、ヨルダン、パレスチナ、レバノン、シリア、エジプト、スーダン、リビア、チュニジア、アルジェリア、モロッコ、モーリタニア。



©DLE 外務省ODA広報キャラクター ODAマン

教えて! 外務省 / 知っておきたい 国際協力²⁷

中東・北アフリカ地域の国々の多くは、ときにアラブ諸国と呼ばれることがある。アラブという視点でこの地域を考えてみよう。

今月のテーマ

アラブ諸国

答えてくれた人



外務省 国際協力局 国別開発協力第三課 課長補佐 山田 重周(やまだしげちか)さん
2009年外務省入省。アルジェリア、マダガスカル勤務を経て、外務本省中東アフリカ局で勤務。2019年9月から現職。